

産学交流企画2021 活動報告

島根県技術士会 青年部

島根県技術士会青年部では、今回で15回目となる産学交流企画を開催しました。今年も昨年に引き続き、オンライン開催でした。コロナ禍で主流となりつつある新しい技術に触れながら、参加した島根大学と松江高専の学生、技術士の交流を深め、ロジカルシンキングを用いた課題解決に取り組みました。

企画概要

テーマ	島根県の東部と西部の人口比を同じぐらいにするには？
日時	2021年11月27日（土） 13時から17時
内容	開会（挨拶）、スケジュール説明 第1部（自己紹介と社会人への質問） 自己紹介：自己紹介（社会人になるときに不安だったこと。） 社会人への質問、学生への質問 技術士の課題解決手法の説明 第2部（課題解決、プレゼン資料作成） グループワーク プレゼン 今日のまとめ、閉会
実施方法	オンライン会場（oVice）、グループ発表（グーグルスライド）

当日の概要

しまね大交流会2021というイベントで使用されたオンライン会場であるoVice（オヴィス）を使用させていただき、3班に分かれてグループワークを行いました。oViceは雑談がしやすいよう設計されたオンライン会場です。アバター周辺の限られた範囲でしか音声が届かない特性を利用して、同じ会場内で数人だけで集まって話をしたり、隣のグループのディスカッション内容を近寄って聞いたりできます。

グループディスカッションは、oViceで会話しながら、あらかじめ各グループで用意したグーグルスライドを共同編集しながら実施しました。両者とも比較的使いやすいつールであり、新しい形の交流会を経験することができました。

各グループは、それぞれ進行方法に特色がありました。最初に時間配分を決めるグループ、学生が島根県の統計データを調べ始めるグループ、個人のブレインストーミングを中心

に進めるグループ。三者三様の方法で課題解決に取り組みながらも、他グループの様子を偵察するなど、ツールの特性も活かした興味深いイベントになったと感じています。

オンライン開催の不安を軽減させるため、あらかじめ練習会として数日前から会場にアクセスしてカメラとマイクのチェックを行う工夫も行いました。しかしながら、当日はじめてアクセスした学生の中には、通信環境が悪く何度もフリーズしてしまう、カメラとマイクが接続できず参加を断念した方もおられました。新しい環境に対応するためには、インフラ整備の重要性も再認識できたイベントでした。

参加者の声

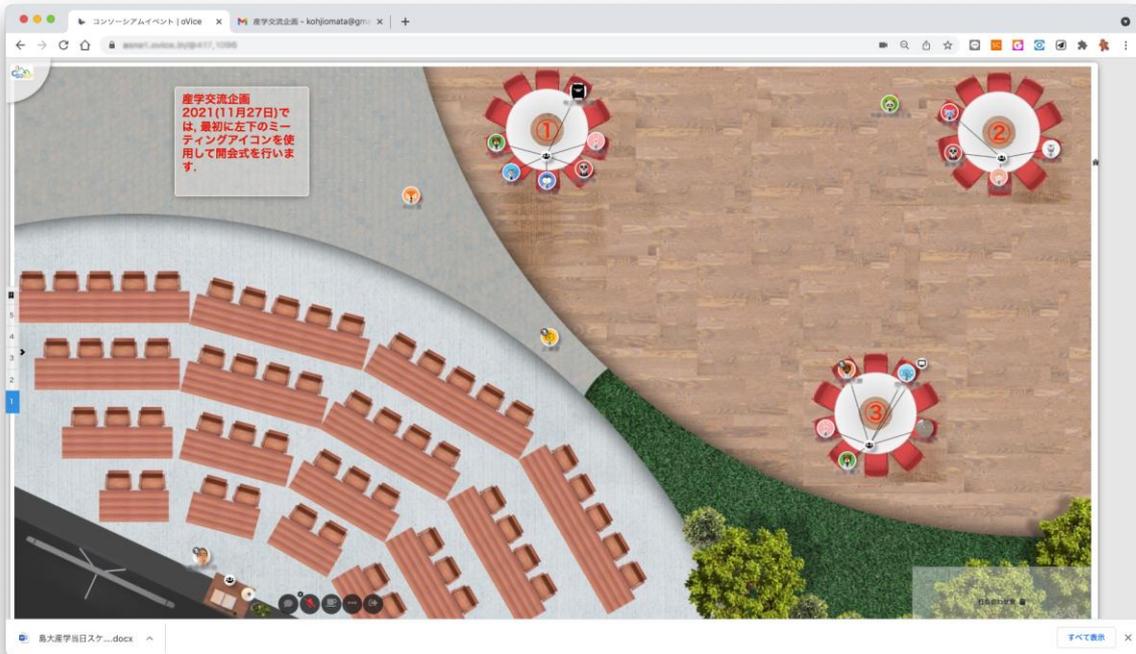
- 学生がしっかりしていて驚きました。オンラインツールはとても使い勝手が良く、面白いものでしたが、一方対面で話ができないことについては物足りなく思いました。（技術士）
- 学生との質問やりとりの時間がもう少しあってもよかったかなと感じた。（技術士）
- 今までより短時間でまとめる必要があり、より密度の高い内容となりました。特にいままで苦勞していたPPTの作製が共同作業できるようになった点は、非常に良かったと思います。（教員）

参考情報

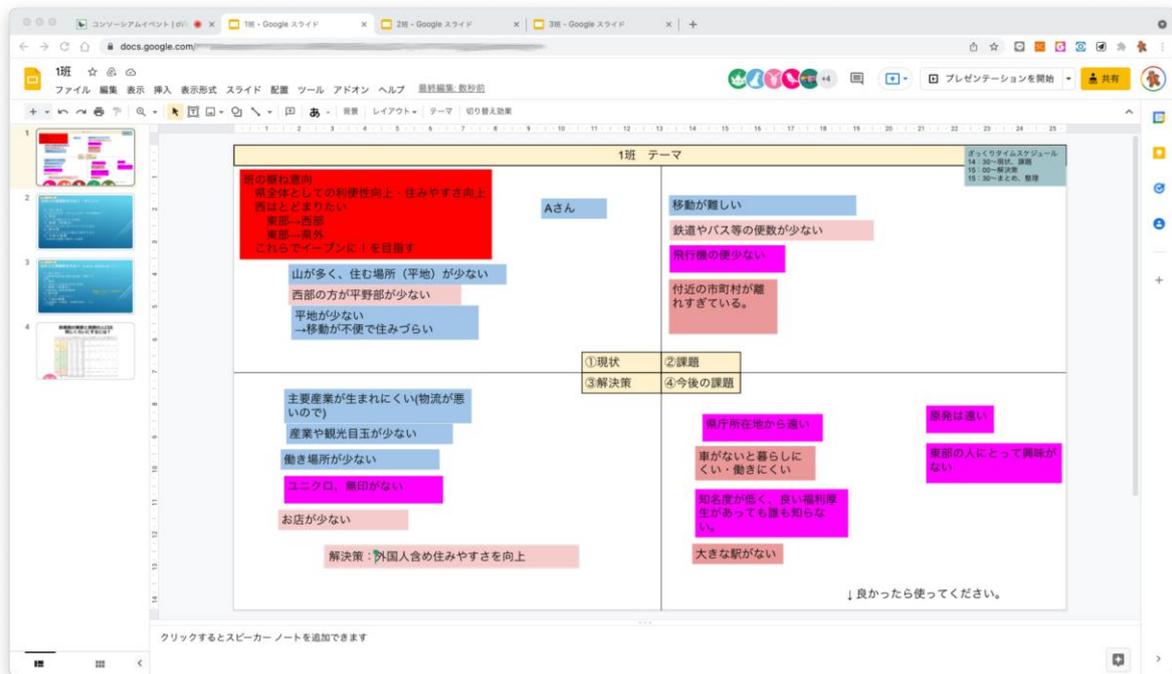
<u>参加者</u>	技術士	7名
	教員	4名
	学生	8名

過去のテーマ一覧

- 2020 GO TO ○○キャンペーン
- 2019 東京オリンピック！どの種目を島根県に
- 2018 災害時にどうやったら避難してもらえるか
- 2017 島根のIPPINをメジャーにするには？
- 2016 自分が住んでいる（いた）地域について考えよう



オンライン会場の様子



グループワークに使用したグーグルスライド